

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 23 号

平成28年(2016年)
10月1日 発行



秋の箕面「勝尾寺」

本堂の欄間らんまの部分部分をを狭間さまともいいます。

狭間とは、一般に櫓や城壁に設けられ、外を窺うかがう窓のことですが、本堂の狭間は阿弥陀さまが私を窺うために設けられたといただくこともできます。

大阪別院の狭間には本山佛光寺と同じく、孝行を伝える「二十四孝」が彫られています。孝行し、人道的に強く優しく生きることとはとても大切なことですが、なかなかできないことはありません。私自身、孝行を尽くしたいという思いはあっても、我が身、我が思いを優先してしまい、周りの人はもちろん、我が親でさえも思い通りにならず悲しみ苦しむようになります。そして、ときにはこのような状況から逃げ出したいときもあります。

そのような自分の思い通りにならない迷いながらの人生を引き受けていく生き方こそが、仏道の歩みであることを私に伝えるきっかけとして、本堂の狭間には二十四孝が彫られているといただいています。

(葦名 彰)

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

超願寺 みちの まさひろ 道野真弘

今日は「自利利他円満^{じりりたえんまん}」という言葉

をテーマにお話しさせていただきます。

「自利」とは自分の喜びを得るという

ことであり、「利他」とは他者にも喜び

を得てもらうということです。

この世に生きる私たちにおいて自利

利他の気持ちは常に持つておかねばな

らないと思います。

しかし、生活の上でそのような気持

ちを持つことは難しいものです。

私たちの自利利他

例えば商人が自利利他の気持ちを持つて、自分にも利益があり、消費者にも喜ばれる商いがしたいと思ったとします。

でも実際はまず自分の儲けが確実にならなければ消費者のことを考えないでしょう。自分が損をしても消費者に喜んでもらうということはなかなかできないことです。

これは自分の利益のためには努力はできても、自分を後回しにして、他人の利益のために努力をすることには限界があるということでしょう。

ですから自分以外の人のために尽くそうとするとそこには、自己犠牲を払う必要があります。この自己犠牲とは、私が我慢してあげているという思いにほかなりません。これでは自利利他が成り立ちません。

阿弥陀さまの自利利他円満

阿弥陀さまは我々を救うと四十八願を立て（利他）、兆載永劫^{ちようざいえいこく}の修行をされて阿弥陀如来となりました（自利）。

つまり自分の幸せ（自らの喜び）が、他人の幸せにつながり、他人の幸せ（他者の喜び）が、自分の幸せになるということなのです。たとえそれが悲しみであっても阿弥陀さまは共に悲しんでくださいます。

阿弥陀さまは自身と私たちを分けて考えていないのです。それを「自利利他円満」というのです。

自利利他円満、わが身を照らす大事な言葉として聞き続けたいと思います。

（平成28年3月20日勤修の

大阪別院彼岸会法話より）



如によ是ぜ我が聞もん

聞思もんしの歩み

真宗大谷派 正業寺しやうごうじ

新田修巳にった おさみ師



如来とともに

今回お話を拝聴し、「阿弥陀仏のよびかけは、私の応答があつて初めて意味を持つ」という言葉が印象に残りました。

平成28年7月29日、真宗大谷派の新田修巳師をご講師にお迎えし、法友会研修会が開催されました。

闇から光へ

新田師は大谷大学時代に金子大榮先生の講義を受けられ、「聞思」という言葉が深く心に刻みつけられたそうです。

講義を聞く中で、「韋提希は王舎城の深宮で、釈尊の言葉によって、苦悩の闇から光の方向へと導かれていったと『観経』には説かれている。この

ように聞思とは、心の闇の中で、一筋の糸をたどつて光の方向へと歩みを進めることである」という言葉に、聞思の歩みを実感させていただいたということでした。

綺麗な風

「六月を 綺麗な風の 吹くことよ」。これは正岡子規が、結核による咯血で大変重篤な

病状にあつた時期に詠んだ一句だそうです。病苦に煩悶する中、なぜこんな清々しい句が詠めたのか。新田師は、子

規のあらゆる書き物に目を通して、精査、思索される中、ある人物と彼の関係を見出されます。

それは金子先生にも大きな影響を与えた清沢満之先生です。清沢先生は自らも瀕死の病苦の中で、如来とともにあることに目覚め、宗教的救済に安んぜられます。

子規のこの句は、如来とともにあるいのちへの目覚め、すなわち無量寿への目覚めの中で詠まれたと推測されるとお話しくださいました。

念仏とは、私からの阿弥陀仏へのよびかけです。しかし、実はその背景には阿弥陀仏からの私へのよびかけがあつたのです。ともによびかけ合う世界が念仏の歩みなのだと味わせていただきました。

「聞思して遅慮することなかれ」。ぐずぐずするな、あれこれと思い煩うなという宗祖の励ましをいただきながら、如来とともに浄土への人生を歩ませていただくこそ「聞思の歩み」であると聞かせていただきました。

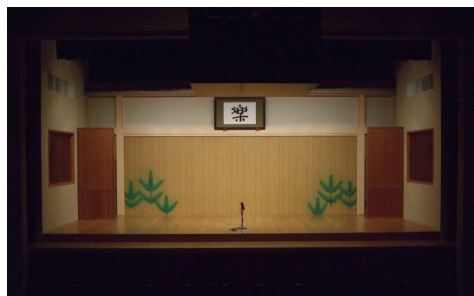
(門川崇志 記)

大阪探検

てんまてんじんはんじょうてい 天満天神繁昌亭



天満天神繁昌亭の外観



繁昌亭の舞台

明治・大正の頃、上方落語は隆盛を誇るも、第二次世界大戦で大阪は焦土と化し、すべての落語の定席^{じやうせき}を失いました。

戦後十八名の落語家で結成された上方落語協会は、地域寄席などの地道な活動を続け、現在では、二百五十名を超える大所帯になりました。この落語ブームの背景には、二〇〇七年に放送されたNHK連続テレビ小説『ちりとてちん』の人氣と、天満天神繁昌亭が一役を買いました。

悲願の定席・繁昌亭

繁昌亭は、上方落語協会と天神橋筋商店街と大阪天満宮との話し合いの結果、天満宮が境内地を無料提供し、建設費約二億四千万円も支

援者の寄付金により設立されました。

上方落語に縁の深いこの地に、上方落語の悲願の定席が六十一年ぶりに復活したのです。今では、地元関西の落語ファンのみならず、大阪の観光ルートに組み込まれ、全国からのお客さんで連日の大入りです。

開設十周年

繁昌亭は今年九月で開設十周年を迎え、二百十六の客席の椅子を張り替え、リニューアルしました。昼席は午後一時開演、出演者は週替わりで、各一門のベテランから若手の落語家七人と、色物といわれる、落語以外の芸も入る本格的な寄席です。隣接する日本一長い天神橋筋商店街の散策もおすすめです。

(長田 譲)

【アクセス】

- ・地下鉄谷町線・堺筋線「南森町駅」4-B 出口から徒歩 3 分
- ・JR 東西線「大阪天満宮駅」3 出口から徒歩 3 分
- ・JR「天満駅」から徒歩 15 分

【問い合わせ先】

〒530-0041
大阪市北区天神橋 2-1-34
06-6352-4874
(午前 11 時～午後 7 時半)
昼席前売 2500 円
当日 3000 円

ごえんさんを訪ねて

ほうりんじ 宝林寺 (阪南市) ふじい しんかん 藤井真幹 住職



元禄山宝林寺は、元禄元（一六八八）年に開基、嘉永二（一八四九）年に現在の寺号となりました。そして昨年10月、第二十二代を継職されたのが藤井真幹住職です。

佛光寺派寺院としては大阪最南端に位置し、組内（近隣寺院のグループ）9ヶ寺のうち、宝林寺以外は堺市内にあるため、実に30km以上離れています。それでも組内での報恩講や研修会には必ずご出勤、ご参加されています。

そのことについてご住職は「距離は気にならないという嘘になります。でも他の寺院のご住職方とお話をしたり、お経の練習をしたりと、意味のある時間を過ごし、いい刺激を受けています」と。

音楽とともに

娘さんが小学生だったとき、学校のPTA仲間とともにロックバンド



宝林寺の本堂内陣

「Ozsan's」（おっさんず）を結成されました。オリジナル曲を中心に活動し、昨年9月には結成10周年の記念ライブをされたそうです。「子どもたちのために始めましたが、気が付けば自分たちが楽しんでます」と。また、数年前からは雅楽の笙（しょう）を始められました。なぜ笙なのかとお尋ねしたところ「お寺にたまたまあったから」だとか……。

当初の目標だった大阪別院報恩講

での演奏も無事に終えられ、それにとどまらず、今年の春には教区内寺院の大遠忌法要でも披露されました。

お寺とともに

若い頃は親に反発してお寺から離れていましたが、お母さまの病がきっかけとなり、次第にお寺に足が向くようになったそうです。

現在では、先代ご住職とともに精力的に法務をされています。「しんどいこともあります、ご門徒さんと語り合い、また助けられながら日々を過ごしています」

そして一日の疲れを、近所のスパ―銭湯で癒されるご住職でした。

（隅谷俊紀）

■宝林寺（ほうりんじ）

〒599-0205

阪南市新町265

電話 072-472-1414

Fax 072-472-1414

大悲トピックス

■「大悲の会」が後援する布教大会を開催

7月16日、高照寺（堺市北区・隅谷俊紀住職）にて「大悲の会」がコーディネートする初めての布教大会が開催されました。

大阪教区所属の布教使である脇阪義仁師



法話される3名の布教使。右から脇阪師、寿栄松師、葦名師

（霊松寺・大阪市住之江区）、寿栄松正顕師（西光寺・大阪市淀川区）、葦名彰師（妙圓寺・高槻市）の三名が「お念仏の教え」をテーマに法話。

そして、この時の様子が宗教専門紙である『文化時報』の一面に

掲載されました。



7月23日付『文化時報』紙の一面より

■布教大会開催寺院の募集

上記の通り、「大悲の会」では、大阪教区内寺院の聞法活動の促進、ならびに教区内布教使の研鑽のため、各寺院における布教大会開催のコーディネートを行っています。

この布教大会は、「大悲の会」が寺院と布教使との間に入って調整することで双方にとって有意義な法座が開催されるものと考えています。

そこで、「大悲の会」が後援する布教大会を開催していただける大阪教区の寺院を募集しています。詳細は「大悲の会」のメンバーにおたずねください。

（大悲の会一同）

■懇志御礼

岡山県真庭市 正覚寺様

燦ホールディングス グループ

なごみ庵

き・た・は・ま

KITAHAMA

法要料理

希望の場所までお届けします。

- 四條畷店 ☎0743-78-7521
- 瓜破店 ☎06-6769-0140
- 伊丹店 ☎072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

御本山 近 用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

（〒600-8344）京都市下京区花屋町通小路東入

電話 (075) 371-0367(代)

FAX (075) 371-5088

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑

寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

ご寺院、お役に立てる商品が、きっと見つかる情報誌！

寺がある、法が活きる、寺の友社。

株式 寺の友社

〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2

TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29

http://www.teratomo.jp

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

（株）小林造園

代表取締役：小林正典

〒603-8442

京都市北区西野山東町 36-1

tel 075-491-4256

fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 葬儀相談センター (24時間・365日受付、通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131

だいひ 絵日記

- 7月16日(土) 大悲の会後援・布教大会(高照寺にて)
 7月19日(火) 佛青懇和会懇親会
 7月20日(水) 大悲の会編集会議(第23号読み合わせ)
 7月26日(火) さつき会研修会(本山坊守研修会参加)
 7月29日(金) 法友会研修会(聞思の歩み・講師:新田修巳 師) ①
 8月13日(土) 大阪別院盂蘭盆会(～15日)
 8月18日(木) 大悲の会編集会議(第23号読み合わせ) ②
 9月15日(木) さつき会研修会
 (DVD『了源上人物語』鑑賞とお話・講師:吉田 譲 師)
 9月19日(月) 大阪別院彼岸会(法話:寿栄松正顕 師)
 9月22日(木) 大阪別院彼岸会(法話:佐々木太一 師)
 9月25日(日) 大阪別院彼岸会(法話:葦名 彰 師)
 9月25日(日) 大悲の会編集会議(第23号発送作業・第24号内容検討)
 (法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



東 京 石
 和 光 庵
 慶事、仏事、各種会合等の際は、
 和光庵の仕出し料理を
 御利用下さい。
 株式会社 和光庵
 〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
 TEL06-6774-8090 www.wakouan.co.jp
 西天満店 結心(ゆいごころ)
 〒530-0047 大阪市北区西天満4-10-5-1 階
 TEL06-6809-6311 www.yuigokoro.com

株式会社 モントラベル
 〒550-0013
 大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
 TEL. 06-6531-1344
 FAX. 06-6531-1346
 http://www.monto.co.jp
 仏跡参拝ならお任せください!

浜屋は関西最大級の
 お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
 専門店です。
 やすらぎの 世界を創る
 浜屋
 通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル
 お問い合わせ
 お申し込みは 0120-1616-94
 ●受付時間/午前10時～午後6時30分

協 賛
 法 友 会
 さ つ き 会
 佛 青 懇 和 会

創業安政3年
 京 佛 具 調 進
 森田屋
 福野御佛具處
 〒601-8424
 京都市南区西九条猪熊通九条上る
 tel. fax 075-691-8423

「大悲の会」御用達
 鮎 さぐち
 旬魚菜
 地下鉄御堂筋線あびこ駅南
 tel. 06-6696-6880
 〒558-0011 大阪市住吉区荻田 7-5-20
 さつきマンション 1F



どなた様でもお参りいただけます
法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前 7 時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

11 月下旬 (25 ～ 28 日を除く)

隅谷俊紀 師 (高照寺)

12 月中旬 門川崇志 師 (浄方寺)

大阪教区寺院で開催される法話会

◎仏願寺 (大阪市東住吉区・06-6702-0994)

11 月 14 日 (月) 午後 2 時

「定例法話会」法話：戸次公正 師

12 月 14 日 (水) 午後 2 時

「定例法話会」法話：玉出宗順 師

※詳細は各寺院にお問い合わせください

大阪別院 報恩講

10月27日(木)午後2時より

勤行・挨拶・法話

法話：目下秀淳 師 (滋賀・円覚寺)

編集秘話

「到彼岸」と「如是我聞」の編集は特に難しい。どちらも 30 ～ 40 分の法話を、読めば 2 分、800 字足らずの原稿に仕上げねばならない。法話の勘所を外さず、かつ浄土真宗のみ教えに照らし若干の修正・加筆を行う集団作業。時には布教使さんの思いと、微妙な受け止めの違いもあるかと自問する。この難題にご容赦を。(長田)

編集後記

「大悲の会」後援の布教大会。会所寺院として無事お勤めでき、ホッとしています。一度に 3 名の方からお話をお聞きする機会は滅多にないことで、ご門徒さんも喜んでおられました。今回の布教大会での法話を、いずれ「如是我聞」で取り上げさせていただきます。「編集秘話」に書かれていますが、これがまた難しい…。(隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第 23 号 (秋号)

平成 28 年 (2016 年) 10 月 1 日発行 (発行部数 2200 部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田 6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲 (会長)

隅谷俊紀 (副会長)

寿栄松正顕 (会計)

玉出宗順 (会計)

門川崇志 (監事)

佐々木太一

葦名 彰